

- ① 「1セット5過程方式」とは、一つの(新出)漢字を五つの過程で指導する方法をいいます。
- ② どんな漢字にも、読み(音)、意味(義)、字形(形)の三要素が総合されています。この三要素を相互におもいうかべる能力を養い、生活や学習場面で使えるようにすることを重視します。
- ③ 一字の指導時間の目安は、低学年20分、中学年15分、高学年以上10～15分です。
- ④ 児童・生徒の学年や実態、漢字指導に使える時間、漢字の特色などに応じて、五つの過程に軽重をつけたり、一部を省いたり、指導の順序を変えたりして柔軟にとりくみます。
- ⑤ いずれの過程でも、発表し、聞きあうことを重視して指導します。

漢字の要素(形・音・義)の学習	<p>I (音)読みかた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その漢字に触れた体験の出し合い(体験との結合による興味づけ) <p>「その漢字をどんなところで見ましたか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが理解できる範囲で、漢字語・訓読みの語を板書する(音訓同時指導)。教師による提示もありうる。 <p>「読みかたを確かめましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用例から読みかた(音訓)を確かめる。 ・板書した漢字語を声に出して読ませる。 	⇔	<p style="color: magenta;">いずれの過程でも発表し、聞きあう。</p> <p>それにより、</p> <p>①友達と交流し、友達の知識・生活・考え方を知る。クラスづくりに役立てる。</p> <p>②漢字の意味を理解し、適切に使えるようになる。</p> <p>③いろいろな語例や文例によって、理解でき、使える漢字語をふやす。</p>
	<p>II (義)意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意味の手がかりは、訓、使いかた、実物、絵・写真・実演、成り立ちなどから。 <p>「漢字の意味を確かめましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要な意味をとりあげる。 		
	<p>III (形)字形</p> <p>(1)字形の分析(字形の組み立て、似た字形に着目させる。)</p> <p>「この漢字の組み立てを考えましょう。」</p> <p>(2)手首化をめざす(「手首化」とは、筆順にしたがってスラスラと書ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画と筆順を確認する。 ようになることをという。) <p>「この漢字を筆順にそって書く練習をしましょう。」</p>		
漢字語の学習	<p>IV 漢字語(熟語など)の学習 (語いをふやす)</p> <p>「コトバ集めをしましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・およその意味や使い方がわかるコトバを集めさせる。 ・複数の意味をもつ漢字は、どの意味の使いかたかをはっきりさせる。 ・初めに意味ごとに数例の典型的な例文を示したり、口頭作文を発表させたりすると、文作りのイメージをつくりやすい。 ・板書のコトバ、用例を全員で読む。 	<p style="color: magenta;">●定着の3側面</p> <p>1、理解による定着(理解の深さ)</p> <p>2、反復による定着(頻度)</p> <p>3、利用による定着(聞く、話す、読む、書くの活動経験)</p>	
使用の学習	<p>V 文づくりとその交流</p> <p>「短文をつくり、発表しあいましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文づくりに使うコトバは、なじみがある語だけにしぼる。 ・同じコトバを使った文を続けて発表させる。 		